

ちょっと読んでみませんか（令和八年春季彼岸）

第80話『自由自在』〈本源寺住職 本間健司〉

さる二月は、イタリアミラノで行われた冬季オリンピックで日本中が歓喜の渦に包まれました。

日本代表選手が冬季オリンピック史上最多のメダルを獲得し、世界にその実力を示せたことは、自信を失いつつある日本人にとって大きな励ましになったのではないでしようか。

近年のオリンピックにおいて日本人の活躍が目立つようになってきている要因として、まず国が選手の育成や練習環境の整備に力を入れるようになってきたことが挙げられています。もちろん、それは大きな要因であることに間違いありません。

しかしそれだけでなく、数十年前のオリンピックに比べて、選手たちが伸び伸びと楽しみながら競技に挑める雰囲気が出来上がってきたことも大きな変化であり、そのことがメダルを含む良い結果をもたらしているように感じるのであります。

先月のオリンピック期間中の朝日新聞のスポーツ欄に、次のようなコラムが掲載されていました。『自由自在』という題名で書かれた記事ですが、とても私の印象に残りました。

〈記事より〉

その言葉には、新鮮な響きがあった。

「アユム君って、バケモノですよね。」

スノーボード男子ハーフパイプの平野歩夢について、女子で四位に入った十六歳の清水さらが語っていた。

骨盤を骨折しているのに、五輪二連覇の可能性を感じさせる異次元のアスリート。その十一歳年上のカリスマを、清水は「君」と呼んだ。

清水だけではない。チーム内では当たり前のように、「アユム君」と呼ぶ。

ビッグエアで銀メダルを獲得した木俣椋真は、この種目で日本男子最年長の二十三歳。だが、後輩たちは親しみを込めて「リョーマ」と声をかける。

本人も「全く気にしていない。年齢に関係なく、リスペクトし合っているから」。大会中の選手村では部屋に集まってみんなでゲームを楽しんだという。

スノーボードには必要以上の上下関係がない。コーチに対しても「君」や「さん」。敬意は払いつつも、自由な雰囲気¹が伝わってくる。技や服装、髪型も個性的だ。

二十数年前、高校球児だった頃の自分を思い出した。

ヒットを打てなかったらどうしよう、エラーをしたら怒られるかもしれない……。先輩、監督の視線をいつも気にしながらプレーしていた。当時はそれが当たり前だった。

今大会、日本はスノーボード勢のメダルラッシュに沸いた。金4、銀2、銅3。過去最多の9個のメダルを手にした。

失敗したら怒られるかも……。なんて「無駄な」緊張と彼らは無縁だった。「楽しかった」のびのび滑れた²。それぞれの選手が自分の力を出し切る雰囲気があった。

スノーボードには互いにたたえ合う文化が根付く。

ビッグエアで金メダルに輝いた村瀬心椋は各国のライバルたちから胴上げされた。その村瀬はスロープスタイルで「二冠」を逃すと、それを阻んだ金メダルの深田茉莉をハグで祝福した。

同じ目線で笑って、泣いて、潔く。喜怒哀楽にあふれつつ、恨みっこなし。球児の自分に、見せてやりたい光景だった……。

題名の『自由自在』という言葉は、もとは仏教語からきていて、「何もものにもとらわれないことのない、のびのびとした安らかな身心の境地と、そこから現れる、とらわれのなはいはたらき³」。つまりは“悟りの境地”を意味する言葉です。

ですから、「自分勝手」や「わがまま」とは全く異なり、『自分を生かし、周りを生かす』“浄土の世界”といってもいいでしょう。

葬儀や法事で必ず読む『妙法蓮華経 方便品(ほうべんぼん)第二』というお経の最後で「如是相・如是性・如是体……」という箇所を三回繰り返して読むのを覚えていらつしやるでしょうか。

この部分は、仏様から観た物事の真実の姿(実相)、つまりは“仏様の悟りの境地”が説かれていて、それは三つの観点を自在に操ることから、私たちもそれにならって三回繰り返して読むわけです。

その三つの観点とは、

① 「空(くう)」 〓 物事の表面的な現象は、様々な要因や縁によって常に変化するものであるから、それに執着したりとらわれてはならない。

② 「仮(け)」 〓 一時的な現象でありながらも、それは現実として確かに存在しており、目を背けずに受け止め、対処していくこと。

③ 「中(ちゆう)」 〓空(くう)にも仮(け)にもとらわれず、物事の深奥にある絶対的真理
―「全ての物事の尊厳性」を観ずること。

この「空・仮・中(くうけちゆう)」の観点から見ると、スノーボーダーをはじめとする今の選手たちは、見事に『自由自在』を体現されていることを実感します。

試合の結果やメダルは喜怒哀楽しながらも現実としてきちんと受け止め(〓仮)、
しかし、それは様々な要因によって常に変化し得るものだからと慢心や自己否定する
ことなく(〓空)、

オリンピックの本義である国境を超えた融和と他者への尊重という眼差しを忘れていない(〓中)のです。

人口減少や働き手不足により“行き詰まり”を感じる日本社会ですが、スノーボーダーのように、“自分を生かし、周りを生かし”『自由自在』に飛び回れるような雰囲気構築していくことが、日本復興のカギとなるのではないのでしょうか。

メダル数や結果だけでなく、選手たちの心の在り方・生き方から多くを学べるような
気がします… **合掌 南無妙法蓮華経**